



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

よく見る。なんども見る。

サイエンス・カフェ「花や葉の観察会」より

第10回目の「サイエンス・カフェ」は「花や葉の観察会」を行いました。講師の神山隆之さんは新種の発見など多くの業績を上げているすみれ研究者です。日光市、栃木県内のすみれだけではなく、南米ボリビア（チャカルタヤ）、チリ（アンデス山脈）のすみれにも興味を持ち、フィールド調査を行っています。今回は、身近な植物を観察して描いてみようという「植物細密画の初歩」。

はじめに、神山さんの案内で報徳会館周辺の植物を観察しました。見慣れているはずの道ばたの草も、よく見るとかわいい花が咲いていたり、タネができていたり、観察の楽しさを味わいました。30分ほどの散策の後、各自が支援センターに持って帰った植物を『最初は自由に』スケッチしました。つぎに、神山さんから『花や

葉の付き方、葉脈をよく見ること』などのアドバイスを聞いた後、同じ対象をスケッチしました。ふたつの絵を見比べると、別の人が描いたようです。左の絵はSさんの描いたスギナ。ポイントを押さえた画は、ずっと立体的に見えます。

植物は誰でも何度も見ているですが、ただそれだけで植物を見分けることができるようにはなりません。



「植物の形をよく見て描こうね」ボードで観察のポイントを説明。

多くの植物を観察し、同時に、どこをどう見ると他の種と区別できるのかというポイントを学ぶことが分類の基本と聞いたことがあります。

観察を重ね、科学的知識を身につけることによって、ものの見え方が変わってくる。久しぶりに鉛筆を持ってスケッチしながら、対象をじっくり見ることの大切さを感じた「カフェ」でした。（手塚）

（右図は参加者の描いたゲンノショウコとクワ）



これからの「なんにわ サイエンス・カフェ」

第11回 「くまの木」天体教室 11月9日（金）

第12回 超高速計算機の世界（仮題）

講師：川井敦 さん（重力多体問題専用計算機GRAPE開発者）

日時：12月8日（土）午後7時30分 から約1時間

会場：日光市民活動支援センター

東京大学大学院理学系研究科天文学教室を中心に、天体力学シミュレーションのために開発された計算システム「GRAPE」。なぜ高速な計算機が必要なのか、どんなことに使われているのか… 中学生から大人向け。

第13回 静電気の話（仮題）

講師：湯澤光男 さん（宇都宮市立若松原中教諭）

日時：2008年1月12日（土）午後1時30分 から3時

会場：日光市民活動支援センター

湯澤さんは「強い静電気を発電できる手回し式起電機」を使った実験で、創意工夫ある理科教育に贈られる「東レ理科教育賞」を受賞されました。

小学校高学年から大人向け。

目次

| | |
|---------------|---|
| 第3回定期総会を終えて | 1 |
| ワカモノフェスタ 2007 | 2 |
| ベリー会レポート | 2 |
| 活動日誌 | 3 |
| 学習サポート始めました | 3 |
| こんな本はいかが？（2） | 4 |

居場所のひとこま

■ポプリ製作が小さなブーム。
毎週火曜日、やっていますので興味のある方、どうぞご参加ください。

■毎週火・金の午後は「若者の居場所」と「親の会」を開き、相談も受け付けています。「居場所」に集まる方の年齢層、興味の範囲が広がっています。



不登校している人や、こもっているみんな、それに今悩んでいる真っ最中の子どもやワカモノ/たちが、自由に気楽に1日遊べるイベント!

ワカモノ・フェスタ

~Dream on Dream~

同時開催:

不登校・ひきこもり

シンポジウム

子どもの居場所・父の関わり・DV・自立とは・本当の学びって...

12月9日(日)

10:00~18:00

とちぎ青少年センター

宇都宮市駒生1-1-6

TEL028(624)1488

昨年11月25日(土)に、とちぎ青少年センター(アミークス)で行われた「ワカモノ・フェスタ2006」では、参加者が約400名にのぼり、若者たちがとても大きな繋がりの中にあることを実感することが出来ました。

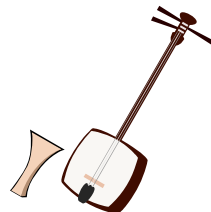
今年も、「ワカモノ・フェスタ」を通じて、たくさんの若者に素敵な出会いが訪れるならいいなあと思います。

現代社会は、不登校・ひきこもり・ニートなど様々なことで苦しんでいる人たちが多くいます。共通して言えることは「生きづらさがある」ということではないでしょうか?きっと誰の心の中にもそういった気持ちはあって、苦しみ、悩み、それでも頑張っているのだと思います。

そんな心のモヤモヤしたものを、みんなでイベントを楽しんじゃうことで、やりたいことが1つでも多く実現出来ればいいなあと思います。

主催: ワカモノフェスタ実行委員会

なににわの若者スタッフが本イベントスタッフとして関わっています。ぜひご参加ください!

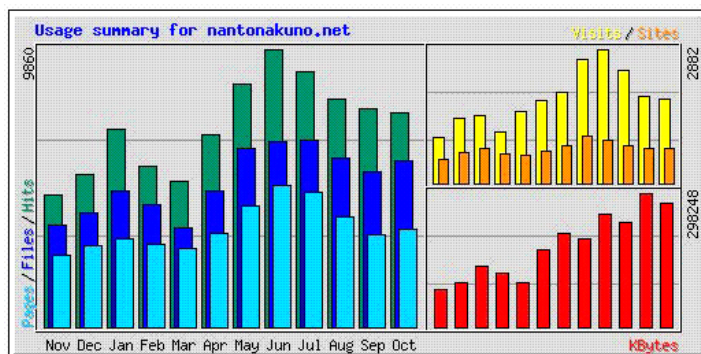


野外でのベリー会例会

本年6月に就任した吉成勇一理事の「ベリー会」参加レポートです。

先日、不登校やひきこもりの親の会である、ベリー会の月例会に参加するため、宇都宮の福祉プラザに行ってきました。今回は普段利用している研修室の予約が取れていなかったこともあり、近くのファミレスでの食事会を予定していました。ところが、実際に人数が集まって移動の際に駐車場を歩いていると、天気は快晴で、日差しが暖かく、とても心地良かったので、グラウンドの隅の芝生で、木立の陰にビニールシートやクッションを敷いてそこで行ってはどうかということになりました。

靴を脱いで皆がシートの上に輪になって座り、飲み物やお菓子を片手に話し合いましたが、まさにピクニックのような気分でした。のんびりとして穏やかな雰囲気の中、気持ちもいつもより開放されて積極的に意見の交換ができました。夕方になるにつれ少し肌寒くなってきたので、全員でシートや荷物を移動して、日なたへと場所を移す一幕もあるなど、参加者の親睦も自然と深まり有意義な時間を過ごせたと思います。もちろん、話や相談の内容と性質から考えて常に外で行うのは無理なことですが、たまにはこんな定例会もいいなと感じました。(吉成)



ホームページ、見えますか?

図は本会ホームページのアクセス統計グラフです。訪問者数が昨年に比べて増えています。ネットでは、「グーグル」などの検索ロボットが統計を取るために動いていたりするので、単純に「Hits」が増えたからといって「アクセス数が増えた」とは言えません。詳しく内容をチェックしてみると、通信PDF版のダウンロードが増えるなど、このホームページをチェックしている方が確実に増えていることがわかります。ホームページ担当の沼尾忠宏さんがこまめに更新していることもあり、定期的に訪れている方もいるのではないのでしょうか。

先日の「支援者会議」の折、情報を届けるためのホームページや「メルマガ」の活用などの話が出ました。どちらもマンパワーが必要であり、これからの課題と考えています。すぐにできそうなのはイベント告知板の拡張です。いまは「なににわ」だけに限定しているイベント紹介を、市内の子育て、教育などの関連団体にもよびかけ、ここを見ればいろんなイベントの情報が得られるようにしてはどうか。もちろん市民活動支援センターにも告知欄がありますが、子育て、教育に限定するというので、アクセスしやすくなるのではないのでしょうか。

「こんなことをやってみたら」などアイデアがありましたら、遠慮なく会までお知らせください。

☆ 活動日誌

- 8月27日(月) 発達障がい支援者連絡会(第19回)
- 9月1日(土) 三味漫画ライブ(沼尾)、拡大理事会(第17回)
- 9月5日(木) ワカモノフェスタ実行委員会
- 9月11日(火) ワカモノフェスタ実行委員会
- 9月16日(日) ベリー会(吉成、沼尾)
- 9月24日(月) 発達障がい支援者連絡会(第20回)
- 10月6日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月17日(水) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月20日(土) なんにわサイエンス・カフェ(第10回)
- 10月22日(月) 発達障がい支援者連絡会(第21回)
- 10月24日(水) 県立盲学校(宇都宮)、ゆうわの森(鹿沼)見学
- 10月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 10月28日(日) ベリー会(吉成、沼尾)
- 11月3日(土) 理事会(第18回)

* ワカモノフェスタ実行委員会: 吉成、沼尾、加藤が実行委員として参加

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。それぞれの立場での意見や悩み、助言などの意見交換、他地域の先進的な取り組みの紹介もあります。今年度、市教委に所属する臨床心理士の参加をいただき、参加者が発達障がいについての知識を深めるような場所にもしていきたいと思えます。どなたでも参加自由の会です。

気軽にご参加ください。(西尾・白井)
連絡先: 日光市民活動支援センター
(電話: 0288-22-2271)

12月22日(土) 午後1時30分より
「しつけ・子育て」についての講演会を
予定しています。(詳細未定)
会場: 日光市中央公民館小ホール

学習サポート、始めます。

「不登校」や「発達障がい」の子どもたちにむけて、学習サポート事業を始めることにしました。学校での「勉強」の枠にとらわれず、子どもの興味関心をもとに学んでほしいという「なんにわ」のコンセプトを生かした「学び」を子どもたちと一っしょに作っていくための試みです。

担当: 前田、加藤、吉成、手塚
会場: 日光市民活動支援センター

■ やってみたいことをさがそう

あれこれなしながら、いっしょになにをやっていくか、かんがえよう。いろいろなかんがえがまざって、ちょっとおもしろいことがみつかるかもしれない。

■ じかんでかけてかんがえよう

ひとつのものをいちねんかけてかんがえたっていいとおもう。すぐにこたえがでてくることって、みのまわりには、そんなにおおくないんだ。

■ わかるってこういうことなんだ

「わたしはじぶんにつくれないものは、りかひできない」... あるとしをとったぶつりがくしゃのへやのこくばんに、かいてあったことばだ。わかったとおもっていても、それをつかってみることはむずかしい。そして、わかったとおもったとたんに、わからないことがどんどんふえてくる。このぶつりがくしゃは、そんなことをかんがえてたのではないだろうか。

学びサポートびろば

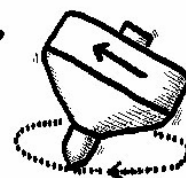
毎週金曜日 午後4時~8時

【発達障がい、不登校のこどもの
自主的な学びをサポートします。】

場所: 日光市民活動支援センター
(第2会議室)

時間: 開会時間内、11つまで

はじめの1ヶ月は無料です。
その後は実費を
負担いただきます。



主催: NPO法人 なんとなくのこ
協力: 日光市民活動支援センター
連絡先: 080-5514-2631 (手塚)
0288-22-2271 (本館29)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒 321-1261 日光市今市 378
電話/Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください
<http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

こんな本はいかが？ その2

「私のおすすめ本」を紹介するコーナーです。今回は「NPO法人 雑草」理事長として活躍し、当会会員でもある山田さんより原稿をいただきました。

『トム・ソーヤーの冒険』

マーク・トゥエイン 訳: 斎藤正二、角川文庫
(カット: 『ウィキペディア』トムソーヤーのページより)



「トムソーヤーの冒険」を約25年ぶりに読み直した。小学生の時と中学生の時と30代半ばに読んだけれどそれぞれの年代でみな感想はちがった。

ただあのころは“腹を抱えて笑った”のみだったな。

でも今回、トムのしたたかな頭脳と生きぬくための計算に裏付けられた悪戯が根底には流れていることに気付いた。計算づくの悪戯なのにトムを叱責する叔母さんとの知恵比べには笑ってしまう。なぜか私の生き方と重なり合っているところがたくさんあり、まるで俺のことでと考えると考えさせられてしまった。でもいつの時代にも文句無く楽しい本だ。

中年になって読み直すと‘意味深長な内容の本’だった。このことがアメリカ文学上の古典として生き残っているゆえんなのだな、と考えさせられた。

トムはいたずらする事を通して自分の考えを押し通した。自分の主張をまわりの大人達には叱られたけれどめげなかった。そんなかれの生き方に対して拍手を送ることで自分の生きてきた年月を重ね合わせて、いつまでも思慮深くそれでいて無邪気でいられればうれしい。という思いになった。
(山田清一)

現在の会員数

正会員: 35、賛助会員: 17

団体会員: 3 入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんとなく」の活動の約30%は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加を期待します。

なんとなくのへや

最近「バーチャル」の世界ばかりが目立つコンピュータ、じつは便利に使える高性能文房具というのがその本質です。この文房具に仕事をさせるためには、仕事の内容を細分化し、関わりのあるデータを数値化しなければなりません。その手続きの後、コンピュータ上での処理手順を何らかのプログラム言語で記述し、適当な機械や電気回路を組み合わせたハードウェアに実装することになります●プログラムを書く作業は難しそうに見えますが、それは現実の仕事ソフトウェアに置き換える作業全体のほんの一部です。一連の「業務」をひとたびコンピュータ処理に移してしまえば、いままで時間をかけてやっていた仕事があっという間に終わり、便利になったことを実感したという経験をお持ちの方も多いでしょう●「システム」が完成してしまうと、簡単なボタン操作だけで仕事が進むことになります。その仕事をほんとうに「理解」しているのはコンピュータだけということになってしまったら…●極端な想像かもしれませんが、仕事のノウハウをパッケージ化することが、ほんとうに私たちにとってよいことなのか、これから社会はどう変わっていくのか、「想定外」のさまざまな問題が立ち現れてくるのではないのでしょうか。(T)